

第1回

上野地区まちづくりビジョン策定委員会

日時：平成29年11月1日（水）

9：32～11：33

場所：台東区役所10階 1003会議室

午前9時32分 開会

1 開 会

2 副区長挨拶

〈荒川副区長〉

3 座長・副座長選出

○事務局 続きまして、次第に沿って進めさせていただきますが、次第の3でございます。座長と副座長の選出を行わせていただきたいと思います。

お手元の上野地区まちづくりビジョン策定委員会の設置要綱でございますが、第4条2項におきまして、座長及び副座長につきましては、学識経験者の委員の方のうちから委員の互選で定めることとさせていただきます。

大変恐縮ですが、事務局としましては、座長には岸井委員に、また副座長には高見委員にお願いしたいと存じますが、皆様いかがでございましょうか。

(「異議なし」の声あり、拍手)

○事務局 ありがとうございます。

それでは、岸井委員に座長を、高見委員に副座長をお願いしたいと存じます。よろしくお願ひ申し上げます。

それでは、お二人を代表して、岸井座長より御挨拶を頂戴したいと存じます。

○座長 それでは、改めまして、日本大学の岸井と申します。ただいま御推挙いただきまして、この会の司会進行役を務めるということになりました。

上野は言うまでもなく、日本の文化、お宝の中心であります。あるいは、最近では海外からの方も随分お越しでございますが、東京、日本の魅力を伝える非常に重要な場所になっていると思っています。その中心が上野の駅だと思っておりますが、駅のほうは少し歴史があるのでそれを今の時代、あるいはその次の時代に向かってどのように考えていくのか、あるいはまちとの関係をどう考えていくのかというあたりは課題が残されているように思います。

きょうはオブザーバーの方もかなりいっぱいいらっしゃいまして、関心が高いというこ

とを示しているように思いますが、地元の皆さんと一緒にこれからの上野を考えて、上野が東京、日本にとって大変大事だということをさらに磨きをかけるということになればいいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

高見先生とは前からよく御一緒させていただいていますので、力を合わせて何とか進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局 ありがとうございます。

4 議 事

○事務局 続きまして、次第の4でございます。議事に入る前にお断りでございますけれども、本委員会は、設置要綱第7条に基づきまして会議及び会議録等を公開させていただくということにいたしております。

また、本日傍聴の希望の方が4名お越しということでございますので、そのまま入場いただいております。

また、本日の会議の資料、それと議事録でございますけれども、内容を確認した上で、また発言者のお名前を伏せさせていただきまして、区のホームページにて、後日ではございますが、公開させていただくことをあらかじめ御了承いただきたいと存じます。

以降の議事につきましては、座長、よろしくお願い申し上げます。

(1) 上野地区まちづくりの将来イメージについて

○座長 それでは、お手元の議事次第をごらんいただきたいと思います。きょうは大きく3つ話題を御用意いただいています。これを順次御説明いただいて意見交換をしていきたいと思っています。

まず最初に、上野地区まちづくりの将来イメージについてということで、事務局から説明をお願いします。

<事務局より資料1について説明>

○座長 現状に対する認識とこれからのイメージの素案ですが、参考資料というのも関係

があるので、これも説明していただきたいと思います。

〈事務局より参考資料1～3について説明〉

○座長 歴史的な資料と、上野公園にかかわる計画、そして今の地域の基礎的な数値が入った資料ということでございました。

それでは、一旦ここで意見交換に移りたいと思いますが、これまでの上野地区に対する認識あるいは、きょうは初回ですが、事務局から将来のイメージのたたき台のたたき台が最後に出ておりますけれども、こういったものについて関係各位の御意見、あるいはこれからの作業に関してこういうものもぜひ検討してみしてほしいとか収集してほしいとか、そういう御注意もあればいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○副座長 2点ほどありまして、資料1の3ページの真ん中の図で、文化資源が公園の中に集まってしまっていて外にあまりないというお話で、それはそのとおりですけれども、何かある意味それが上野の特徴でもあると思うので、外にばらまけば良いという話でもないように思うのです。ただ、新美術館ができて、それから民間の三菱一号館とか、非常にまちの中になじんだものが出てきている状況からしますと、上野の場合は外にはなさ過ぎると思いますけれども、今がすごく閉鎖的なのでどんどん外とつなげばいいということでは、上野の何か領域性みたいなものは少し違うのではないかなと思っております。特にそれを思いますのは、今参考資料1を見せていただくと、もともとここは寛永寺ですから、やはり広小路から寛永寺へつながる流れ、そして中に入ってしまうと寺社地の中のある雰囲気というようなものは今後いろいろと検討していく中でも重要なものではないかなと思いました。

もう1点ありまして、6ページですけれども、みどりと環境ということが書いてあります。非常に特徴的なのは不忍池があるということもありますし、非常に台地の足元に池があるわけですので、表に見えている緑の話だけではなくて、水がどのように回っているのかというようなことまで考えるべき時代に来ていると思いますので、ぜひそういう視点も入れていただけたらと思います。

○座長 ちなみに不忍池の水源というか、水収支はどうなっているのですか。これは都の方が詳しいのですか。

○事務局 湧水はもちろん谷中のほうからずっと回って来る水がございます。

○オブザーバー 東部公園緑地事務所でございます。細かな収支はちょっときょうこの場で数字は持ち合わせておりませんが、不忍池の水源の一つはJRさんが駅舎の工事をされたときに、ちょうど新幹線か何かのときかと思いますが、そのとき出ました湧水なども入っておりますし、また一部井戸の補給という形でも応急はしております。また、改めて収支のほうは確認してお伝えしたいと思います。

○座長 ほかにはいかがでしょうか。水の話も少し調べましょうという御意見がありました。

○委員 公園に観光客がたくさん来て、美術館には来るのだけれども、なかなかそういう人たちがまちに流れていかないというのが一つの問題点、もう1つは、昭和通りを挟んで高速道路の向こう側に、ある意味断絶され、開発も含めてそういう流れがなかなか行かないという、公園を中心にどちらも流れがとまってしまい、公園中心だけで終わっているというところに問題点があるのではないかというのが、ずっとまちの中の問題意識としてあって、それをどのようにこのプランの中でやっていけばいいのかと考えているところです。

○座長 地元の方の問題意識をさらに重ねていただけると、ほかの方からも地元としてこういうことをもっと考えてほしいというのがありましたら、最初ですからいただいております。

○委員 副都心上野まちづくりという活動以前に、上野中央通りの商店会の会長をやっているとき（の問題で）、中央通りは都道ですけれども、（マルイさんの前のところ）中間から国道になっておりまして、道路清掃だとか管理云々でも、例えば上野駅前のペデストリアンデッキのところに残された横断歩道橋とか（あれは国が管理しているとか）、なかなか素人にはそういう行政の縦割りのなものというのは分からなくて、今回ちょっと僕が感激しているのは、ここにオブザーバーではいらっしゃいますけれども、いろいろな方々がいらっしゃって、今までこういう会があれば、そういう問題も皆さんで協働しながらできた。これからまちづくりビジョンをつくっていくわけですけれども、皆さんがそういう行政の制約の中でお互いを知り合って、その中で良いものができる可能性が非常に高いと思うので、最初からこういう集まりがあるというのはまずそこに大きく期待したいと思っています。

細かいことと言えば、今、委員がおっしゃったように、この中でよく文化というと「上野の山」ということで、昨今の訪日外国人を見ても、アメ横のあの雑踏に来ていて、日本はもちろんアジアの一国でありますので、何ら違和感なくあのようなものを楽しんでいら

っしやる。だから、やはりそういうことも含めて我々のまちのなりわいとか歴史だとかという必然性の中に今のまち全体が形成されているという視点を忘れて、ただ何かきれいにしたり新しくしたりするということだけを考えていくということではないのが、まちの人たちがみんなとにかくまちに対する愛情というか、上野ラブが非常に高いものですから、そういう意味での開発という言葉よりも、皆さんでつくっていくビジョンというものをこの会でできたらいいかなというのを今率直に考えております。ありがとうございます。

○座長 ほかには地元の皆さんのほうで。

○委員 私はアメ横商店街の名誉会長、それから上野観光連盟、それから全整協、こちらの会の会長をしております。端的にこの会ができたということを非常に喜んでおるわけですが、この落とし込んであることは大体我々が今まで何十年もかけて先代から代々にわたって、江戸から明治への移り変わりからずっと、昭和の最初からずっと取り組んできたことであって、非常にその実施してきたことの確認という感じで今受けとめております。

上野はもちろん御存じのとおり、複合的、重層的な歴史、伝統、文化、芸術それから芸能、それから商業、こういったものが一体化した魅力というのが非常にまず一番大きな点である。それでエリア的にも発展が非常に可能であるということです。それで、我々が目指しているものというのは、まず1つは「上野の山」、文化ゾーンと駅とまちとの一体化です。ということになると、おおむね回遊性の向上と、それから我々が特徴として出せるのは、長時間滞留の実現が可能だということです。今までのイメージとして上野は昭和のイメージもありますけれども、新宿、渋谷などと都市間競争を我々はしておりますけれども、魅力としては老若男女が、おじいちゃんがお孫さんを連れて来られて、なおかつ今度新しい上野フロンティアタワーもできますけれども、若者も取り入れるということで、そういった意味でまだまだ可能なところだと思っております。そんなことで、やはり一番大事なことは回遊性、長時間滞留、それから快適性です。快適なまちをつくる、それが一番今回のポイントではないかと我々は思っています。

そして、特に2020年に向けて大事なものは、やはり安心・安全といいますが、やはり観光の基本コンセプトというのは、何度でもそこに行きたくなるという場所だと思います。何かそういった意味で、非常に犯罪的なおいとか、それから汚いとか臭いとか、やはり行ってみたら嫌な思いをしたとかそういうことがないように、そういった意味で、再来、何度でも来られるようなまちにしていこうと思っております。

それから、これは5ページの中の観光、入り込み客数の数字のことですけれども、2,726万人という数字は、私どもはこの数字ではないと思っております。今、文化庁長官もそうですが、もう3,000万人を目指すと行って、上野公園でも文化的なものの中で既にもう2,000万人を超えておりますし、それから駅のターミナルの人の数が全然違う。これはまず上野駅、JR、京成、メトロ、そういったものが乗り合わせた非常にターミナル性のある上野は玄関口であるということだと思いますと、非常に数字が大きい。台東区内のほかの地区の比較を言うつもりはございませんけれども、上野がリーダー的に引っ張っているということは区長を初め皆さん認めていることでございます。

そこで、ちょっとこの数字は明らかにおかしいということは、前から申し上げておりました。アメ横を470万人としてカウントしている時点でもう間違っています。アメ横は例えば1日5万人来たとしても1,300万とか簡単に(52週ありますからね)、それで土日で10万人と、それでも既に2,000万人近くのお客さんが来ているし、駅はそれだけのものがある。そして、何しろ一番強いのは上野と御徒町、このエリアのこの回遊と人の数というのは圧倒的に多いわけですね。だからちょっとこの数字はもう改めてほしいと思う。荒川副区長にも言ってありますけれども、こういう間違った数字がひとり歩きしてしまう。

だから、私がクレームをつけるのは5ページ目だけです。ほかのことは良いです。みんな頑張っていく、この会をまちづくりとしてつくってもらおうというのは結構ですが、私どもは本当に急務として上野はもう外国人の観光客が大勢来ていまして、これは台東区として5,000万人という数字のパイからして区内の例えば入谷、それから浅草南、浅草橋、それから浅草、上野というバランスの中において数字上5,000万人にしなければいけない。

圧倒的に多くて、圧倒的に台東区を引っ張っていく上野の玄関口というのは非常に重要なことなので、我々がまちづくりをする基本的なことをもう一度見直してもらわないといけない。これは浅草にあっても同じようなことをやっているのだと言われてしまうと上野の立場がありません。数字というのは我々の通信簿でありプライドですから、間違った数字を書かれている時点でこれはもう既に基礎が違うということを今日は申し上げておきます。

そういう意味で、本当に上野が将来に向けて非常に東京の代表であるような、そういった位置づけが持てるような、誇りを持って江戸から明治への移り変わりの舞台であって、

本当に歴史のヒストリー性もあるようなこのような地区を我々は大事にしていきたいし、今度NHKで大河ドラマは西郷さんもやりますし、今年彰義隊150年のイベントもやりましたし、そして明治維新150年になりますし、これを機にこの会が開かれたことと、基本的に歴史の日本の新しい夜明けの舞台であったという誇りを持ちながらこの会を我々も一緒になって進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○座長 ありがとうございます。

ほかには地元の皆さんのほうから。

○委員 私、東上野連合町会ですけれども、私ども東上野連合町会でもこのまちづくりというのをやっております。この大仕掛けなまちづくりができますと、我々はもう必要がなくなるのか、存続するのかということをお聞きしたい。

○座長 これは区のほうでお答えいただけますか。

○事務局 先ほど資料の中でも申し上げたのですが、資料1の10ページです。ちょうどここに地域で生活する方々のことをここで光を当てるという形をとっております。今後このまちづくりが進められるとしても、ここで暮らす人たち、そういった皆さんが中心になるのだという意識を私どもは持っておりますので、そのところはなくなってしまいうようなことではなく、一緒に住んでいる方も幸せになれるようなそういうまちづくりを進めたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○委員 この東上野のまちづくりについては、区長さんを初め、ほかの委員の皆さんも出られるわけでございますので、これができると必要がなくなるのではないかなとか、こんなふうにも思うのですが、それはないということですか。

○事務局 はい、ございません。大丈夫です。

○委員 そういうことは、私ども東上野で進めているまちづくりは引き続きやるということですね。

○事務局 おっしゃるとおりです。

○委員 わかりました。

○座長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 上野商連と申します。観光入り込み客数について、今後どんどんふえる、うちの計数がおかしいというのはよくわかるのですが、実はまちなかの旅行社に聞きますと、意外に海外から見てくださったお客様が滞留する場所がないという駆け込みが多いというような話を聞き取りとしてよく聞きます。結局それは何かというと、今の日本のこのまち

づくりの構造にあるのではないかという気がいたします。昨日もJフロントの発会式、パルコの開店祝いに出てまいりましたけれども、上層部の方たちは「クローンをつくることはもうやめよう」と言ってらっしゃいました。要するに、まちとして、あるいはショッピングセンターとしてのクローンをつくっても何もおもしろくない。

ということは、我々が目指すところは、新たなる道であると考えべきだと思います。新宿であれ、池袋であれ、渋谷であれ、他の都市間競争はますます激しくなっていくと思いますけれども、滞留時間を長くさせるためには、実はモノ消費よりもコト消費だというようなことで、頭のいい方たちが飛びついたのは外から来た女性に和服を着せてまちを歩かせて、それでお互い満足というような感じの商売をしているということでございますけれども、新たなるコト消費が発明されない限り、まちの中というのは今後成り立っていかないのではないかなと思います。

それと、去年ある方に講演をしていただいてその方がおっしゃったのは、「あなたたちはなぜもっと谷中に目を向けないんだ」と。ということは、欧米の方たちは日本のスピリチュアルがある谷中ということで、谷中はどこだと訪ねてくる方が多い。これは宗教にかかわらずからなかなか難しい問題がございますけれども、上野の地図を見ますと「谷中」というのは書いていないんです。上野公園の中に谷中という表記が一つもないということがありますので、そういう点も勘案して、長くいられるため、長く過ごしていただくためにはどうしたらいいのかということは今後考えていきたいと思っております。

○座長 ありがとうございます。

ほかに地元の方。

○委員 資料2のイメージの4つに必ずこの広がりという形で「将来イメージの実現に向けた検討方針」、例えば2ページも3ページも緑であったりブルーであったり広がりということで、これを見ますと、まちから上野公園を見ても、上野公園からまちを見下ろしても一番の邪魔になっているのが、私個人的には首都高速でございます。

これ20年後に向けたビジョンということを考えますと、ただでさえ入谷で終わってしまっていて、もう既に盲腸線でその後の開発計画はないと聞いております。また国道としても上野駅から秋葉原は渋滞が国道の中でも多いほうだと聞いていますので、あれそのものがなくなりますと、メンテナンスも含めまして道路公団さんも一生懸命耐震工事をしていましたけれども、ペンキも剥げていますし、見た目も汚いし、まちの視認性含めて広がりも東上野のほうに（あるいはこちらの区役所のほうに）、こういう公共機関への広がりを含

めて、あれが20年後なくなっていると私としてはいろいろな意味でまちが広がっていきますし、防災の観点からまたあのペDESTリアンデッキというものの存在も必要なのでしょうけれども、その辺も含めて、ここにも出てきましたけれども、上野駅の入り口のところの正面はごみ置き場になっておりますので、そんなことも含めてあの辺が大きく変わってきてほしいなという感じを持っております。

(2) 取り組みの方向性について

(3) 今後の検討の進め方について

○座長 方向性というか、これからの話が大分出てきたので、先にこの資料2と、それからこれからの進め方、全部資料を説明してください。その後でもう一度議論したいと思います。

〈事務局より資料2, 3について説明〉

○座長 ただいまの資料3の下の方にある図のまちづくりビジョン策定委員会がこの場です。ですからきょうは1回目です。11月1日というところに○が入っていて、この事務局のスケジュールでは次は来年度（大分先になりますけれども）に初回をまたやらせていただくかと考えている。その間、下の方の基盤整備部会というのを、これは主に空間、ハードな部分についての議論を少し先行してやってはどうかと。後ほど、来年度になってから、ソフトな行動、まちづくりの活動というものについていろいろな議論をする場をつくっていききたい。この2つの部会で議論を少し整理しながら全体をこの策定委員会で調整する、ということかと思えます。

ちなみに、基盤整備部会を先にやりたいということですが、どんなメンバーでおやりになるのですか。

○事務局 今考えている基盤整備の部会ということでございますけれども、まず先ほど御参照いただきました要綱の別表の2ということで、その中に掲げてございます。学識経験者の皆様、それから基盤整備に係る鉄道事業者の皆様、それと道路・公園、また公共施設の管理者の皆様を中心に構成をさせていただこうと考えております。

部会員に御就任いただく皆様には近々日程調整等も含めて手続をさせていただきたいと

思っておりますが、そのうち部会長を要綱の第6条3項に基づきまして学識経験者の委員の方から座長の指名で定めることということとさせていただきますので、座長に基盤整備の部会長の指名をお願いできればと存じます。

○座長 その前に、まずこのように進めたいということに関して少し意見があればいただきたいと思うのですが、全体の流れとしてこれだけの数の方を毎回集めるのはちょっと大変なので、少し分けて議論していただいたものをまたここへ上げていただく。その間に恐らく調整が必要であれば個別に事務局が走り回るといことかと思いますが、基盤整備の部会を先にやって、後ほどまちづくりを追っかけやっていくということではよろしいでしょうか。

とりあえず空間をまず考えてみようということで、今日の案では、先ほどこの空間を誰が管理しているのかという質問がありましたけれども、きょうオブザーバーでいらっしゃっている人たちも含めて、この辺の空間にかかわる、特に公共関係のものにかかわる方たちで一旦は問題点を整理して、その上でどういう改善策があるのかというのを議論することにさせていただきます。

今のお話はそれに部会長を決めろということなので、私からはできれば高見委員に、この辺のことはお詳しいですし、基盤のこともお詳しいので、基盤部会の部会長をお務めいただいて、今年度の中にこの図のとおりにいけば2回くらい、もんでいただいたものがこの会に全体で上がってくるということにさせていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。

高見委員、よろしいですか。

○副座長 では、御指名ですので、お受けしたいと思います。

○座長 それでは、やってみないとわからないので、やってみたらまたいろいろと変更が必要であれば柔軟に構えたいと思いますので、先行して今の空間の問題。先ほど回遊とか滞留というお話があって、観光客の数の話もありましたが、今日の資料の中にはそういった面の数字が示されるものがないので、その辺の作業から交通流動はどうなっているのだというところを理解することが第一歩かと思います。加えてそれぞれの管理者の方から今抱えていらっしゃる課題は何だと思っているかということをお聞き取りいただいたり、あるいはお使いになっていらっしゃる方たち、あるいは海外の方たちが何を感じているのかというあたりもぜひしんしゃくしていただいて、これからの方向性に向けてワンステップ、ツーステップと進んでいただきたい。途中でまたこの皆さんの前でいろいろなことを

御披露いただきながら議論を進めていくということにさせていただきたいと思います。

それで、先ほど御紹介いただいたように、資料2に検討すべきテーマと事務局が書いていますが、まだこれは、この4つが軸であるというのも今日決める必要もないとは思いますが、4つの軸を意識するとそれぞれにこういう検討すべきテーマがあるのだというお話がありました。

先ほどのこれまでの議論で言えば、水の問題をちゃんとやろうということについては余り触れられていないかも知りません。あるいは、これは交通の議論にもかかわりますが、首都高さんをどうするのだということも余りこの中では明示的に書いていないので、そういったことも今日いただいた御意見も踏まえて作業として基盤整備のほうでやっていただきたいと思います。

そういう前提のもとに、まず先生方から、これからどういう作業をすべきか、基盤整備部会でこういうことをぜひ考えて欲しいとか、今日考えている事務局のイメージは違うとか御指摘をまずいただいて、後ほどオブザーバーの方にも少しずつ御発言をいただくと良いと思っていますので、いかがでしょうか。

○委員 資料の1の4ページ、5ページ、それから資料の2のほうにも繰り返し出てきている考え方として「回遊性」という言葉が繰り返し出てきております。あるいは上野公園が周辺に広がっていくという表現もまた同じような考え方だと思いますけれども、そのところが多分割と「回遊性」という言葉で全部くくられてきて、実は上野地区はさまざまな目的を持った方がいらっしゃるということを前提に含めて、その回遊性の中身というものをもう少し厳密にスタディーをしてみる必要があるのではないかと思います。

つまり、上野から秋葉原を目指す人とアメ横を目指す人と、それから湯島に流れる人、それから谷中に流れる人、多分みんな違う趣味とか性格を持った人だと思うのです。そういう人たちがやはりどんな回遊性を持つかというのに対して、それぞれのトレンドを持った人たちに対しての考え方というものも整理をすべきだというのが1つです。

それからもう1つ、かつて上野公園は寛永寺があるところで、上野公園の下のまちというのは多分門前町のような、上野公園に行くことも文化的ないしは宗教的な意味であったと思いますけれども、多分その下のまちに行くこと自体が遊興というか、非常に楽しいことだったのだらうと思います。やはり今上野の下のまちがそんなに楽しいかという、確かにアメ横は特化していますけれども、その楽しさというものをほかの新宿とか渋谷とかのように持っているまち自体の楽しさ、そこからの発信という意味では非常に弱いものが

あるだろう。だから、新たな駅前町としてどうするのか。それには先ほど申し上げたようにいろいろな目的を持った人が来てくれるわけで、その人たちの受け皿としてどうなのかということこれから精査して、見ていく必要があると思います。

それから、谷中への回遊性、谷中と上野公園の関係、あるいは谷中がもう上野公園ではないかという話がありました。実は私たちが藝大でキャンパスプランをつくるときに、東京藝大は「上野の山」と谷中をつなぐ玄関口だと、つまり谷中のほうから見ると藝大に来たときに上野公園に入ったと思いますし、藝大を出ていくときにここ谷中地区に入った。実はそれを阻害してはいけないわけで、東京藝大そのものもその2つをつなぐという意味を意識的に考えることにしております。実は、今でも美術館とか奏楽堂とか資料館とか展覧会があると一般の人がたくさん入ってきますが、今実際に東京都美術館のほうの塀を全部取りました。新たにあそこに図書館の改修が今進行中ですが、図書館が昼間は開放されます。上野の美術館のほうから直接藝大に入って校門のほうまで抜けていけるような、そういう開放の仕方を取りあえずしてみようと思っておりますので、東京藝大もこの中に名前が入ってきていませんけれども、やはり上野公園の非常に重要な結節点として我々も意識しておりますので、それもこの図の構想の中に入れていただきたいと思っております。

以上です。

○委員 1つ目は全体的な話ですけれども、資料のあらゆるところに歴史・伝統・文化が入ってくるのですが、結局昔つくられた歴史や文化の上に今乗っかっているということだと思っております。だから、これからビジョンを検討していくときのスタンスとして、やはり未来から見たときに歴史とか文化と言えるようなものを今何かつくっていくのだという意気込みでこのビジョンが検討されるとすばらしいなと思います。

それから2点目として、「上野らしさ」という言葉が必ず上野にかかわるところでは出てくるのですが、何か上野らしさというとなにかわかったような気分になるのですが、いまいまいちわからない。上野広小路に立ってぱっと見るとカラオケ屋とパチンコ屋と銀行の看板があって、これが上野らしさかと言うと多分違うような気がするので、改めて上野らしさは何だということをやはり今の時代として再定義をするということが、ビジョンを考える上で極めて重要かと思っております。

それから3点目が、渋谷、新宿とか銀座とか東京都内の中で副都心として委員が言われたみたいに都市間競争をこれまでしてきたのですが、資料1の7ページに「機能の集積状況」と書いてあって、かつて「副都心」という言葉があって副都心として位置

づけられているのですが、実績を見る限り残念ながら勝負になっていない。先ほど委員がクローンをつくってもしようがないというお話をされたと思うのですが、言ってみれば、競争をしながらある意味周回おくれぎみになっている状態で、この後同じトラックを一生懸命走っても結構追いつくのは難しいので、そういう意味では全く違う価値観のやはり上野らしい別の価値観を持ち込むことで別のトラックを走りに行くぐらいの、何かそういう方向感がすごく重要なかなという気がします。だから、先ほどクローンをつくらないというお話には全く賛同いたします。

最後は4点目ですが、一応防災の専門家ということで私は入っているのでそれについて話をしたいのですが、資料1の11ページ、視点7で防災というのがあって、右下に駅前滞留者の数、いわゆる帰宅困難者の数が出ているのですが、これは直感で言うところちょっと少ないと感じます。実態はもっと多いと思います。建物も古いですし、古い建物で地震に遭ったときにまたその建物に戻るといのはほぼ考えられないので、多分多くの従業者の方とか来街者の方は外に出るということを考えると、もっと多い人数をターゲットにして、上野のまちの安全のための計画というのはつくる必要があると思っています。

仮に明日首都直下地震が起きたとすると、多分海外のマスコミが取材に来るわけです。一番混乱しているところを多分選んで世界に報道すると思うのですが、きっと明日地震が起ると上野か渋谷かなという感じですので、そういうときに脚光を浴びないような計画をこれからぜひつくっていただけると良いと思います。

あと最後、これは委員のお話にも通じるのですけれども、上野のまちだけ客層が相当違って、全く違う目的で来ているのですが、ここで議論される具体的な基盤整備とかまちづくりによって、二面性のあるまちが上手につながればいいのだけれども、失敗してしまうと逆にまちづくりをすることがより分断するような形にもなりかねないので、そこだけ頭に入れながら検討していきたいと思います。

以上です。

○委員 私もほとんど他の委員のお話を引き継いだ感じになるのですけれども、きょうこの資料を拝見しまして、私が長年かかわってきましても、上野の本当に難しさと可能性は紙一重というか裏表だと思うのです。

まず、この歴史的な資料のほうを拝見しますと、すごく印象づけられるのはやはり歴史の重層性という部分だと思うのです。こんなに各時代それぞれで何か文化的な中心性を求められてきたところはそうないわけです。江戸時代の寛永寺、それから明治の開化の時期、

それから内国勸業博覧会、そのたびに美術館、博物館が建っていき、最初の寛永寺の時代はいわば京都の文化を持ってきて、それで江戸における文化の先進地、行楽の中心地という位置づけだったわけですが、そこの徳川色を今度は消すために明治新政府はここに西洋の文明を入れてきたわけです。これでイメージをガラッと変えてきた。けれども、文化的な中心性というのはずっとある。その後戦後、国民公園みたいな形になってきてまた違う位置づけというのができてきた。もちろんまちもある。

こういった部分でこれは非常にいろいろな資源があるのですが、逆に言うと、どの大河ドラマにも出てくるのです。先ほど西郷さんという話が出てきましたが、どの大河ドラマにも上野が出てくるというのがすごさであり、難しさである。つまり、ある意味対立するイメージというのがちょっと違うイメージというのは、そこに併存しているというところがあると思うのです。逆に資源が一つしかないところだと、長野だと「真田」と言うしかないみたいなどころがあるわけですがけれども、そこが多様にあるという可能性と同時に、それがすごくばらばらになってくるという難しさもある。そこをどう重層性として一体感を持ったものとして打ち出せるかというポイント、その歴史の縦軸の重層性をどう打ち出せるのかというのが1つのポイントになってくるかと思います。

もう1つは、多分こちらのほうがより重要で、かつ困難だと思うのですが、何度も資料に出ている、資料1のほうで言えば4ページ、あるいは資料2にもあったと思うのですが、多様性ということが常に上野の場合出るので。今私申し上げたのはある意味歴史的な多様性になるわけですが、同時代においても本当に上野はいろいろな地区にいろいろな顔を持っているというのが上野の最大の特徴です。

先ほど他の委員方のお話にもあったように、さまざまな客層がさまざまな動線で来るとというのが上野の特徴で、これがネガティブに捉えられればずっと回遊性のなさとして言われてきたものです。これはある意味当たり前のことだと私は思うのです。上野公園にこれだけの文化施設の集積がありますが、ニューヨークのメトロポリタンでも近代美術館でも、あるいは大英博物館でもルーブル、オルセーでも、下町にこんな国民的な博物館があることはないのです。大体都心にあるか青山みたいなエリアにあるかどちらかであって、上野のようなエリア、周囲に上野のようなまちが広がっているところにその国を代表するような美術館、博物館があるということは世界的に見ても極めてユニークだと思うのです。これはできてきた経緯からそうなっているわけですがけれども、これがいわゆる来る客層の、どこに来てどのような動線で動くかというのを相当分断してしまっているというのが現状

だと思うのです。

そこに一方で、ちょっと歩けばアメ横があり、あるいは東上野に行けばキムチ横丁みたいなところもあり、上野二丁目の歓楽街がありというのが半径500m～1kmのウォーキングディスタンスにあるということは、これは世界的に見ても極めてユニークだと言うことができると思います。これが現在のところ、いわゆる回遊性のなさという形であらわれてきてしまうばらばら感にもなっているわけですが、これをどう、非常に世界的にも稀有な都市的な多様性を示すおもしろさとして転換できていくか。これが逆に言うと、転換できないと先ほど委員がおっしゃったように、まちづくりというビジョンがかえって分断を示してしまうということにもなってしまうと思うのです。

多様な魅力が各地区にあるというだけでは多分ちょっと足りなくて、各層のいろいろなお客様が見ているものというのを、一つそれを全部含み込んだ、上野はこういうところなのだというのを打ち出すといいますか、そこが一つの大きな方向性として私はポイントになってくると考えています。

委員も門前町というお話をされていましたが、確かに門前町というと寛永寺の時代にはそこと広小路のまちというのが、一体感が今以上にあっただろうとは推測されますが、その部分をどう、例えば景観みたいなものを何とかいじっていく、あるいは整えていくということでもう少し出すことができるのかであるとか、その2つのものが両方あるということが、こちらはこんな地区ですよというのではなく、一体として上野はこれだけの多様性のあるまちなんだということをいかに示せるかというのがこのビジョンの大きな方向性のポイントになってくると感じています。

以上です。

○座長 少し補足ですけれども、先ほど回遊性についてちょっと誤解を招くような発言をしたわけですけれども、今先生方がおっしゃってくださったように、目的によってきちんと結ばないと、ただ開けっ広げにただけではこのまちの魅力につながらないだろうということで申し上げたつもりですのでそれを補足しますのと、それから今先生方から御指摘いただいた特に動線の問題は、基盤部会で議論しなければいけないなと思っております。複雑なものは割ときちんと書き出してみても整理をすると一個一個解決がつくと思いますので、段階を追って検討を進めたいと思っておりますので、この場でいろいろ御指摘いただければ、それを全てそのようにしたいと思っております。

○座長 各先生方から御意見をいただきました。地元の方の御意見もありますね。

○委員 私は今まで区役所がやってきたこのまちづくりはすごく良いと思っていますが、やはり住みたいというまちを、ここから人がいなくなるのではなくて、来たい、区役所の人らはみんなそこらに（家を）建ててそこへ入れば良いし、人がいないところはどんなことをしてもだめで、見ている、上野公園へ行く人は（上野公園の美術館へ行く人）、上野の人はそんなにいるかといったら、意外と近くの人に行けると思っているから、どんなになってもなかなか行かないというのは、これはしょうがないわけです。

でも、上野公園に行った人がみんなこちらに来なければいけないということはないわけだから、そこへ来るのが来やすいとか、何かあったときこうだとか、やはりそういうことを大切にしていかないと、ただそこだけを見てもだめだと思う。そこにいる人が自分らでそこに、というものをつくらないと。これはどこのまちでもみんなばらばらになっている今の世の中、前とは違って町会というのもなかなかうまくいかない世の中になっています。

だから、そういう点では今まで指導してきたことは、僕は一つ一つは良いのではないかと。浅草橋も花を植えたり、そこも初めはだめだと言っていたけれども、できたらすごく浅草へ行く。ただ、今困っているのは、あそこで来た車をいつも警察が捕まえているけれども、何とか捕まえないように。道路がわからないでちょっと曲がってこっちへ来れば、やられている。僕も警察がやっていたときは早くから言うのだが。だから、役所側もそれを見ながら、やっていかないとだめだと思えます。ひとつよろしくお願いします。

○座長 ありがとうございます。

せっかくオブザーバーがお越しですので、少しこれからどういうことをやるべきか御注意あればいただきますし、あるいは今抱えていらっしゃるそれぞれの空間でこういうことを解決したいという御希望があればそれも伺っておきたいと思えますが、いかがでしょうか。

○オブザーバー 国土交通省都市局でございます。

まず、きょう資料1、2と非常に多方面からいろいろな現状分析して方向性をまとめていただいていますし、事務局大変だったろうと思います。よくまとまっていると思いますので、これからも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

これまで話にも出ていましたけれども、上野は関係者が多いというのが特徴かと思っております。例えば鉄道事業者に関しましても、今日いらっしゃるいただいておりますけれども、JRさん、メトロさん、あと京成さんがかかわっておられますし、あと行政も、道路だけとっても国道、都道、区道がありますし、公園もあるということで、関係者が多

いということで、都市基盤の整備はこれから部会もやるということですが、関係者調整が大事になってくるかと思っております。

そういった意味でも、こういった場で皆さん集まって議論ができるという場は非常に大事ということで、こういった場が開けるといのがまず一つ良いことだと思っておりますし、またこれから調整が大事だと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○座長 では、順次いきましょう。余り時間もないので、簡潔にお願いします。

○オブザーバー 国土交通省都市局です。

私自身はこういう場にかかわった資料も読んで、改めて上野はこういうまちだと勉強させてもらったという感じですが、もともと大学時代埼玉に住んでいて東京に通っていたので確かに上野は通って、たまに疲れたら寄り道したり授業をサボるときにこちら辺で遊んだりもしていたという思いであるのですが、国際競争力ですとか世界の玄関・日本の玄関とせっかくうたっているのも、それも歩行者中心の空間にしていくというのも既に書いておりますが、当然そういう世界とかいろいろなところから来る人というのは公共交通とか歩行者中心なので、先ほど滞留空間の場づくりも大事だという話もありましたけれども、ぜひとも歩行者中心の目線の空間づくり、それから基盤整備についてもそういうのを考えていただきたいなと思います。

それから、空港直結の路線が確かにありますので、もちろんありますので、今いろいろな路線があるので羽田からも来るし、成田に来て浅草線直結とかもあります、確かに外国から来た人の一つの目的地であって、かつ世界遺産もあってアメ横もあってというすばらしい、一番最初にまず行ってみようというところの選択肢の一つだと思うので、そういうPRが今後大事だし、もし先ほど資料にもあった宿泊施設が足りていないのだとすれば、それは今後の発展にとっては大きな損失なのではないかと感じました。

それともう1つだけ、関連して、そういう外国の人の流動は成田からおりて何線でどこに向かっているとか、もちろん羽田もあるのかもしれない、国籍によっても違うのかもしれないのですが、上野はどういう場合にどう選択されているかなど、そういう調査を既にやっているものもあるかもしれませんが、そういうものを見ていくのが大事なのではないかと思えます。上野としてこうしていきたいというだけではなくて、そういう外国人あるいは、今でも多分東北、北日本方面の人からは上野に対するノスタルジーをお持ちだと思うので、そういう方に上野を今後どう期待されているのかなというの聞いてみたいと思いました。

以上です。

○オブザーバー 私の専門的なまちづくりのほうの話から一つすると、非常にここ上野はポテンシャルが非常に高い地域で、例えばこの台東区役所があるとき台東区がいなくなつてこれが全部空きビルになったとしても多分何らかの形で埋まると思うのです。そういう意味で、ポテンシャルが高いがゆえに何をやってもそれなりには進むのですけれども、本当に何か将来に向けて良いことをやろうと思うと、何をやるかもそうですけれども、どうやってやるかが非常に大事ではないかと思うので、今後の議論の中で非常に皆さんの思いもいろいろある中でどのようにやるのかというのが何か大事かと思っています。

それから、1回目なのでちょっと自分が感じていることを申し上げますと、昔から私、御徒町から上野の間を歩くのが大好きで、アメ横を通ってもどの通りを通っても非常にわくわくするので大好きで、特にアメ横なんかはあれですが、非常にデパートにもないような貴重な食材が比較的手軽に手に入るのでよく使わせていただいたりしています。

それで、今日皆さんのお話を受けて一つ感じたのは、多分上野は上野の森とかも含めて全部がすごく日本の最高峰のものばかりが、アメ横でも並んでいて、来る側からすると一つ行くともう結構おなかいっぱいになってしまうのではないかなと思う。しかも、そのスポットだけでおなかいっぱいになってしまうので。だから、そういう人を逆にどうやって上野ラブにしてもらえるかというのが何かその回遊性の意味かと思っていて、それでそういうふうの上野ラブ、だから場所のラブではなくて上野ラブになってくるとそれは何回も来たいとか、住みたいとかそういうふうになってくるのではないかなというのが一個人の感想として思いましたので、触れさせていただきました。よろしく願いいたします。

○オブザーバー 今日は国道を管理する立場で参加をさせていただいております、今日地域の方々からは国道に対しての思いを聞かせていただいて身が引き締まる思いをしているところでございます。

実は、都内にはやはりまちと道の成り立ちの経緯から、どうしてもまちのど真ん中に大きな道路が走っているような地区が幾つかございます。そういうところで、こういうまちづくりの議論に参加させていただくとやはり何か大きな道路が邪魔だというような、例えばやはりまちづくりというのは先ほどから議論がありますが、まちづくりの広がりだとか回遊性だとかというのが非常に重要なポイントになってくるかと思っておりますので、そういう中でこれまでの経緯から、位置関係上まちの中に大きな道路が走っているというような構造になっている場所が多い。上野もまさしくそうだと思うのです。

そういう中で、私たちがまちづくりにかかわるときに心がけているのは、いかに邪魔にならないようにまちづくりと一緒に取組める、大きな道路としては道路の役割があるのですけれども、それを果たしながらまちづくりと一体的にそういう回遊性だとか広がりによって邪魔にならないように、我々が何ができるのかというのを常に考えながらこういう議論に参加するようにしております。

そういう意味で、この上野のまちづくりについてはかなりまちづくりの早い段階から我々もかかわらせていただきましたので、皆様の議論をしっかりと聞きながら、道路を管理する立場として何ができるのかということもしっかり考えていきたいなと改めて感じたところでございますので、引き続きよろしくお願いたします。

○オブザーバー 東京都都市基盤部（物流調査担当）です。まちのにぎわいというところから、ちょっと思ったことについて述べさせていただきます。

上野の駅については上野の公園が中心ということがございますけれども、私も実は上野公園はよく遊びに子供と来るといったところでありまして、大きい公園というところもありまして、公園の中で完結してしまうところがありまして、実は今日の話聞いて思ったことは、今まちのほうでやられているにぎわいの拠点、催しとかそういったものも、私が来たときにも上野公園と一緒にどういったまちのほうのにぎわいの拠点があるのかというのはわからない部分があったものですから、そういったものについても、まちとまちのイベントの連携とか公園との連携とかわかりやすいマップとか、そういったソフトの部分についてももう少しわかりやすいような形に検討ができればということをおもったところです。

あと、駅から公園、それから公園と駅とまちとのルートをどのようにとっていくのかというのもやはり重要と考えております。

以上です。

○オブザーバー 東京都都市整備局街路計画課ですが、今、今後まちづくりビジョン策定に向けて都市基盤部会等でハード面の検討を進めていくということでございますが、そういった中で我々都市計画道路の手續等について担当しておりますけれども、もし都市計画道路の変更手續等が生じた場合は、我々は今後台東区さんと調整を進めながら、技術的支援等を行っていく必要があると思っておりますので、その際はよろしくお願いたします。

○オブザーバー 東京都建設局道路管理部でございます。

今回検討の対象になっているエリアを俯瞰してみますと、例えば春日通りであるとか中央通りであるとか不忍通りといった都道、幹線道路は結構駅へのアクセスになっていまし

て、先ほど国道さんからもお話がありましたけれども、この幹線道路が皆様のまちづくりにとってどういう影響を与えているのかというところは課題としてあるのかもしれませんが。

一方で、都道におきましては無電柱化を今進めておりまして、防災性そして景観の向上、良好な歩行者空間の形成といったようなところで、皆様のまちづくりにも少しは貢献できている部分はあるかと思えます。

とはいえ、この議論の中で深掘りをしていく中でどんなことができるのかということは引き続き考えてまいりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○オブザーバー 建設局公園緑地部と申します。都市公園、都立公園を所管してございます。

上野公園に限らず、やはり公園が人を引きつけて、また訪れていただいた方々が公園の中で居心地よく過ごしていただける、そういう公園を目指していこうということで、今あるものについていろいろな取り組みをしていきたいとも考えているところです。そういう中で、上野公園につきましても、やはり地域の皆様のいろいろな思いですとか御期待というのをぜひお聞かせいただきつつ、私どもができるところをやらせていただければと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

○オブザーバー 建設局東部公園緑地事務所事業推進課でございます。

私はこの4月、上野公園に勤務することになりまして、この中に事務所がございますが、まず公園の管理者、事業者としてまちを全く知りませんでしたので、今、週に3回ほど日暮里から谷中を通して、朝40～50分歩いて上野のまちに来ています。また、夜に関しましても「上野の山」をおりてまちなかを周回しております。

そのような中感じるのは、やはりこの上野というまちは、前は新宿のほうに十数年勤めておりましたが、そこにいらっしゃる、歩いている方と質が異なるといいますか、非常に幅の広い方たちと朝晩お会いします。また、上野周辺につきましても、まち自体が歴史的な何かミュージアムのような、一つ一つ最初のころは歩いてこれは何なのだと言うと、非常に解説もあつたりして非常に楽しい、通勤が非常に楽しいまちでございました。

上野公園の事業者、管理者としまして、このまちづくりビジョンの中に御協力できることを何か考えまして、一緒にお役に立っていければなと思っております。よろしく願いいたします。

○オブザーバー UR都市機構でございます。

私どもはいろいろなまちづくりの実務をいろいろなところでやらせていただいているの

ですが、やはり駅前周辺を見て、こんなに特徴のあるエリアがあるというのはなかなかないと思っています。それと文化が重なっていると思ひまして、「上野の山」はどちらかという私からすると箱に入った文化で、先ほどお話がありました商業のところは商業の文化があるのですが、もう1つはやはり先ほど生活の話が出ておりましたけれども、東上野とかあちらのほうが生活とか産業の文化であると思ひます。先ほど、まちが好きとか住むというお話がありましたけれども、それもやはり文化があるからそのように考えられるので、やはり3つの文化が重層的になると、今は2つが際立っていますけれども、3つあると安定するとか、そんなことも考えておひまして、その辺がコト消費とかにつながるとさらに魅力が出るのではないかとおひしてございます。

それから、私ども今開発にいろいろ携わらせていただいております、大きなビルもいろいろとやっているのですが、本当にいっぱい床をつくって大丈夫かなとか、先ほどクローンの話がありましたけれども、似たようなものになってしまうという問題意識があります。一方で、こういった中小ビルがまじっているところというのは、今リノベーションとかいろいろなことでまちにおもしろいものが入ったり、やわらかさだったり、雑味があって魅力となっているというのがありますので、そういった場所における新たなまちづくりの方法は、実はURもまだわからなくて今模索をしておりますので、一緒に考えさせていただければありがたいとおひしてございます。

以上です。

○座長 最後、鉄道事業者の方もぜひ御発言いただければ。

○委員 JR東日本でございます。

2点ほど、今後、基盤整備等で検討していただく中で我々も一緒になって考えたいというをお話しさせていただきたいと思ひます。

1点目が、やはり回遊性ということで資料にもたくさん書いてありますし、皆様の御意見の中にもたくさんあったということで、弊社の鉄道の大きな敷地が真ん中にどんとありますので、分断しているというお話もありました。そういう中で、どうやったらまちを活性化するための回遊性向上に資するののかというところを今後またいろいろ検討させていただきたいと思ひます。資料の中にもありましたけれども、いわゆるパンダ橋、大きな東西の連絡通路がありますけれども、なかなか使われていないというところもありますので、そういったところもどうしてそうなのかというところも含めて、また今後一緒に考えたいと思ひます。

あともう1点が、交通結節機能という点で、やはり上野駅はかなりそこに課題があると我々は考えております。鉄道同士の乗り換えや、鉄道とバス、車の乗り換え等を含めて、広場空間等をどのように整備していけばいいのかというところは大きな課題だと思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員 先ほど東京国道がおっしゃったように、我々も本当に道路さんと一緒に、ある意味迷惑施設になってしまうようなタイミングもあって、駅というのは、やはり駅はまちにとって恐らく味方なのですけれども、鉄道自体は、線自体はまちにとって敵になってしまう、そういう面があって、ぜひこれから味方の部分をふやして敵の部分を少し減らしていけるような、そういうような形をぜひやっていきたいなということで、御相談しながらやっていきたいと思ひます。

それから、ちょっと歴史的な話でござひますけれども、2002年ころだったと思ひますけれども、上野の今のアトレとか本屋の部分を少し改築をしました。当時そのときの議論が、社内的な議論になったのですけれども、やはり駅というのはまちにお客さんをはっきり出していく、そういうつなぎの部分が必要だよなという議論の中で今の形に、暫定だねと言ひながら実はやりました。当時、それより前は不忍口のほうはやはり非常に暗くて、靴磨きのおじさんたちがぞろぞろといて、寝床のない方々が結構下にいらっしやるとか、アメ横のほうにお客さんを流すにしても、ちょっとその間の空間はいかなものかというような御意見も頂戴した中で今の形をつくったのですが、当時は、ちょっと記憶があるのは、そっちは考えたのですけれども、東側に向いてではどのようにお客様を出していくのかとか、そういう議論は若干薄かったと思ひます。今回それも含めた形に議論ができるということですので、いろいろ御相談させていただければと思ひます。よろしくお願ひします。

○委員 東京メトロでござひます。今、少しPRをさせていただいておりましたが、おかげさまでもちましてこの12月に上野～浅草、これが開業してから90周年を迎えるということになっています。これは東洋発の地下鉄ということですのでござひます。このタイミングも意識しながら銀座線については今リニューアルを進めていまして、上野駅に関しましては美術館のあるまちということを意識したリニューアルを進めています。年末には皆様のお目に触れる機会があるかと思ひます。このような形でハードの整備については進めているということになりますが、どうしても課題として残ってしまうのは御案内ということになります。

上野の駅の中に案内所を設置いたしました。日中、私どものサービスにたけた係員を配置して御案内をさせていただいているところではありますが、出入り口までの御案内はできるのですが、どうしてもそこから先の御案内まではなかなか難しいということでございます。

ですので、これから基盤整備部会の中では鉄道だけではなくて、地上の案内も含めて整備についていろいろ議論しながら図っていければというように思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○委員 京成電鉄でございます。

弊社におきましても空港直結している鉄道、交通事業者の一つといたしまして、当社にとっては上野駅が始発の駅になりますので、今後訪日外国人のお客様を多くお迎えすることが予想されています。また約40年ぶりとなりますが、駅のリニューアルをさせていただいております。大分老朽化していたということもありますが、この資料の中にもあります上野の文化の杜構想等々、この上野界隈の文化を大切に、緑や文化との融合をテーマに今上野の駅をリニューアルさせていただいております。

本会議におきましても、上野のまち自体の盛り上がりには資するような形で、一鉄道事業者として協力させていただきたいと思っておりますし、JRさん、それからメトロさんとの乗り継ぎといったところも大切に考えております。皆様とともに2040年を目指しまして、当社といたしましても協力させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

○座長 ありがとうございます。

きょうは初回だったので、これではほぼ全員の方に。まだ御発言いただいていない委員もおります。

○委員 地元の意見は皆さんと大体同じです。

○座長 良いですか。

きょうは初回ですので、皆さんのお気持ちと、それから各関係者の方の状況を確認させていただきましたが、先ほど来、「回遊」という言葉についていろいろ御意見がありました。いろいろな回遊が実はあるのではないかと。それは昔の寛永寺さんの門前町という状況から実は変わっているのではないかと。東博に行きたい人もいれば、場合によったらアメ横に行きたい人もいるし、そういう人たちが、あるいは動物園に行く人もいる。それがいろいろな行きたいところが実はかなり光っている、日本の中でもそれなりの聖地らしきものがある。そこを目指して人は行くのだけれども、その動線がちゃんと確保できている

のか、あるいはそういう新しい聖地の前の門前町というのがこの形でいいのか。

そういう多様な聖地があるので、多様性があるって楽しいのですけれども、それを何かもう少し結びつけたほうが良いのではないのかというちょっとしたヒントは、先ほどの藝大さんのお話にあったように思うのですけれども、違うものが生まれてくるときに結節する部分の役割ですかね、その部分がそれぞれのゲートになってくるといって、行ってみたらそこに新しいまたゲートがあって、次にちょっと行ったらまた次のゲートが出てきて、多様なものはまちに広がっているみたいなことが感じられるというのはすごく、ひょっとしたら空間的にはヒントなのかなという気がいたしました。

ただ、そうはいつでも最後は上野らしさは何だという話になって、国際競争力の議論も出ましたけれども、やはり皆さんの御意見の中ではやはり新しいものでなければいけない。歴史の重層性はあるのだけれども、ブランディングをしっかりと上野と、あるいはこれからの上野はどんなものなのだとすることをうまくつくらなきゃいけない。

それはやはりちょっと2040年の議論をしていますけれども、かなりステップが必要で、2020のオリパラのときが非常に大事だと思うのです。これは海外から必ずこの場所を通して入ってこられるということもありますし、日本のお宝はここにあるとわかっていればここにお越しになるのですけれども、そのときにこの地域がわかりやすくできているかどうか、あるいは浅草と近いとかそんなことがちゃんと理解できているのかどうか。

新宿では、実はターミナル協議会というのをつくって、新宿もいっぱい鉄道があるのだけれどもわかりづらいというので、1枚のマップを新しく起こしたのです。新宿駅全体がわかるマップ。それで今、都が10万枚ぐらい配布をすると。各鉄道事業者の案内所には同じ地図がある。同じ地図を使って、もちろんその上にさらに加えてもらっても良いのですけれども、ベースマップは同じにして、みんながそれを見てまちをわかりやすく把握するみたいなことをやろうとか。

あるいは、渋谷では今まちの中のサインをしっかりとつくりたいと、駅の中のサインを調整するのはごく当たり前ですけれども、そこからまちへ出ていくサインがやはり要る。先ほどもお話にありましたが、上野公園の中に入ったときに周りに何があるかしっかりとわかるようなものがあって、それがまたその次の違う聖地へ向かっていくということに対してしっかりとした情報を送れるというようなことも多分要るのです。渋谷はやろうとしていますので、いろいろな人が注目をするときにわかりやすさは特に大事なので、ここも頑張

ってぜひやってみたいと思います。

やや否定的なことを申し上げますと、2027年にはリニアが品川を目指してやってきます。リニアが来ると近距離の航空需要はリニアにかわりますので、羽田空港には余裕がきますので、より国際化が進む可能性があって、全体に東京の中心が何となく南へ下がっていく感が全体としてはどうしても出ているのです。ただ、それは業務とかそういう新しい運営においてはそういうことがあるかもわからないけれども、東京というところの昔からの構造、江戸城があって寛永寺さんがあって増上寺さんがあってという、この軸線の中で江戸が出てきた。その江戸のまちがここにある、歴史があって、日本のお宝はこのように見えているということをぜひこの機会に大きな声でみんなで発信できるようにしなければいけないのではないか。品川まで来た人は必ず上野まで行かなければいけないというくらいに思ってもらえるように、やはりぜひ良い上野という地域のブランディングを2020あるいは2027に向かってやっていくことが必要だなと思っています。

いずれそれはまちづくり部会とか何かでも議論していただくのでしょうかけれども、それをやる前の、もうちょっと空間をわかりやすくしようということを基盤部会のほうで部長に仕切っていただいて、作業をやっていただいたものを次回皆さんに見ていただきたいと思っています。

その上で議論していただきますが、途中途中でいろいろな言いたいことはいっぱい多分あるでしょうから、どんどん区のほうに言っていただければ、区は事務局ですから、こちらの部会のほうに全部流れますので、これを考えてくれとか、その後どうなっているのだとかいう御心配があればぜひ早目に言っていただいて、基盤部会でもんでいただくというふうにしたいと思います。

きょうは、お約束は2時間ぐらいだということだったので、一旦ここで終わりにしたいと思うのですが、最後どうしても発言したいという方がいらっしゃったらお受けしますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、一旦ここでマイクをお返しして、1回目の会合はこの程度にしたいと思います。

(4) その他

○事務局 座長、ありがとうございました。

次回の策定委員会ですが、平成30年の春ごろを予定しております。詳細は追って御通知申し上げますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、基盤整備部会につきましては、年内の開催を目途に調整いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

5 閉 会

午前11時33分 閉会